

25周年特別企画 前理事長の八幡茂子さんに聞いてみました!

2024年春のリタイア時、お世話になった皆様にきちんご挨拶もせず、大変失礼致しました。25年の感謝の気持ちを「ありがとう」の言葉にかえて、ゆいまる立ち上げに至った私の思いを少し振り返ってみる事にしました。

お金もコネも何もなくても… 思いがつながり25年

★影響を受けた2つの事件

5人の子供が次々に保育園を卒園し、送り迎えという役割が一つ無くなる時、私は四十路に突入していました。さて人生の後半をどうする?日々思いをめぐらしていました。

当時私は、隣町で移送サービスの仕事をしていました。1995年1月17日、車いす生活のAさんと某病院へ。診察待ちロビーのTV画面に延々と映し出される惨状に、震えが止まりませんでした。阪神淡路大震災の発生です。そしてその2か月後の3月20日、地下鉄サリン事件が起きました。



★地域社会の在り方を思う

この2つの事件が私に与えた衝撃は、大変大きなものでした。他人事ではない!何時どこで起きてもおおしくない!特にオウムにハマった若者の姿には、我が子が周りの子供たち、誰でも洗脳される危険性を感じずにはおられませんでした。今の時代なら闇バイトでしょうか?何気ない暮らしの中にポツカリ空いた穴や罅。様々な思いが頭の中をぐるぐる。好んでそこに落ちるはずもなく、そこに至る手前に関わる人の存在、地域社会のあり方が問われているのでは、との思いに至りました。こどもは地域の宝、皆でおおらかに見守り、育てる、と思ってきたのが今や、「知らない人」には近づかない、との悲しい現実。望ましい地域社会の在り方とは?頭の中をぐるぐる。私に何ができるのか?悶々……。

★蘇ってきたテーマ

少子高齢化が進む中、住みよい地域って?これからの地域社会には何が必要?地域社会の在り方を考え続ける日々でした。精神科慢性病棟の夜勤バイトで、「生涯そこで」という患者さんと歩いた長い廊下の軋みと暗さ。「生きながら死んでいるような」表情を忘れることは出来ません。模索し続けていた私に、福祉関係を学んでいた学生時代からのテーマが蘇ってきました。

『異議申し立てが困難な立場の人の尊厳を支え、自立を支援する』

★世の中に变化の兆し

阪神淡路大震災は自然の猛威の凄まじさとともに、多くのボランティアの援助活動に注目が集まりました。ボランティア元年と言われ、1998年のNPO法成立へと繋がりました。また、この頃は介護保険制度論議真っ最中の時期でもあり、1997年介護保険法成立。2000年からのスタートとなりました。介護の社会化も子育ての社会化も、「ケアが必要な人を皆で支える」という事。電車の優先席同様、今は元気な支え手もいつかは譲られ支えられる時が来ますよ、お互い様ですと言うこと。

『循環社会到来!世の中動き始めたぞ!私に出来ることは?』

★はじめの一歩

1995年4月、以前より温めていた活動として「金曜遊ぼう会」という放課後活動を開始!こども5人、皆地域のお世話になり、少しでも恩返しができたらとの気持ちからでした。自宅を週1回の開催から始め、翌年の南部地域センター開設記念事業の企画には、20名以上の子供たちが、集まってきました。要望して日本財団よりハンドベルが寄贈されたことは、お金がなくても、やりたいことは出来るんだ、と思えた出来事でした。緩やかにつながり活動する楽しさを感じ始めると、私の中で温めていたテーマが発酵し始めました。コミュニティケア(地域ケア)、少子高齢化、尊厳、女性の活躍などが複合的に交錯し、「地域」と言う言葉が私の中で大きくなっていました。

★準備開始 大事なことは仲間づくり

NPO設立へと駆け出すまでに4年、その間、ケアマネやヘルパー資格取得などの準備と、地域ケアネットワークの思いを少しずつ語り始めていました。

介護保険制度に向けて、様々な講習会が開かれ、そこで出会った方々との意見交換。介護保険のモデル事業への参加。時には地域のイベントでチラシを配ったりと、自分の思いを語る日々でした。

中島ゆきさんの「糸」を聴いたとき、あっ、これはネットワークのことでもあるなと我田引水。個人では支えきれなくても、様々な人や組織とつながりカバール合うことで支えることが可能になります。生身の自分ひとりでは続かなくても、志を同じくする仲間がいれば、必ず繋がっていきます。

★いよいよ 陸離!

1999年3月27日、設立準備会を中央図書館集会所で開催。でも拠点とする物件すら見つかっていませんでした。「NPO?何それ?」「非営利なんて信じられない!」とどこかの不動産屋からも相手にされませんでした。そんな時、地域の知人の申し出により、南沢の地に拠点を設けることが出来ました。

- 1999年4月3日 設立総会 中央図書館会議室に、市長をはじめ会員と支援者で18名の方々が集まりました。

『本会は、少子高齢化社会における地域福祉の課題に取り組み、市民自らが必要な在宅支援活動を担うことにより、多世代・多様な人と支えあっている、誰もが住みよい地域づくりに寄与することを目的とする』

定款に記した目的です。

- 1999年9月10日 法人登記
- 2000年4月1日 生活支援事業として配食事業等を開始 介護保険指定事業としてデイルーム、ヘルパーステーション、ケアマネを開始

開設時の事務所 小さな看板が見えます。



事務所の玄関

★おかげさまで25年

あれから四半世紀の時は流れました。お金もコネもない、地域の中青年女性(通称おばさん)が3000円の年会費を持ち寄っての本当にゼロからのスタートでした。

あるのは熱い思い 『誰もが住みよい地域をつくりたい!』、「自分にできることで誰かの役にたちたい!」 設立趣意書にこめた思いを糧に、その思い、理念を繋げながら25年。

今改めて思うことです。幾度となく躓き、どうしようかと悩み苦しんだ時、手を差し伸べてくれた多くの方々。思いに共感共鳴した仲間存在には感謝しかありません。決して一人では成し遂げられるものではありませんでした。

大勢の皆様、会員、職員、ボランティア、ご利用者、ご家族、事業所や行政等の関係機関、ゆいまるるに信頼を寄せてくださり、多大なご支援を賜りました。改めて心より御礼申し上げます。

これからも平塚理事長率いるゆいまるるに未永くお力添えを、どうぞよろしくお願いいたします。

八幡 茂子

当時の様子が伺える、懐かしい写真を集めました。



卒寿のお祝いの会



全生園まで春のピクニック



当時、大活躍した車



お鍋の日 ※八幡さん(右)



ある日のデイサービス ※ヘルパーの井出明子さん(右)は2024年8月、急逝されました。合掌



立ち上げ時(1999年、2000年)に入職した方で、今もゆいまるるで活躍している5人の皆さんに、ゆいまるるに参加したきっかけや当時の思い、今も強く心に残っていることをお聞きしました。



★江守 明美さん

2000年ミレニアムの年に記念に何かをと思い、市報の「ホームヘルパー養成講習2級」で資格を取得しました。厳しい実習で取った資格を生かせないものかと思い、先に常勤でゆいまるるに入られた、同じ講習仲間の新妻さんに「自分の出来る時間だけ仕事をするのは無理よね」とダメもとでお聞きした返事が「それでもいいから来て!」でした。仕事を始めて野々村さんと八幡さんに出会い、パワフルな仕事を見てお二人についていこうと心に決めました。色々な事がありました。いつも仲間のヘルパーに助けて頂き細く長く続ける事が出来ています。また利用者様からもお力を頂き、健康第一で頑張ろう!と、思うこの頃です。

★豊田 美智子さん

25周年おめでとうございます。あっという間で。現在、双極性障害の母は、特養に入所しています。ダウン症候群の息子は、グループホームに入所して、平日の子育てに解放された、空いた時間にヘルパーの仕事させてもらっています。配食、ヘルプ研修や同行で学んだことや経験が、生かされていると感じます。今までやってきたことは、後悔の方が多くて、過去は、変えられない、未来は、変えられると信じて歩んでいます。前理事長の八幡さんとゆいまるるの出会いがあったからこそ人生が豊かになったと思います。これからも永く続くように応援しています。

★濱野 りつ子さん

平成12年(2000年)社協の介護ヘルパー2級資格取得の募集に参加しました。その仲間にすでにゆいまるるに所属していたさんがいました。Iさんとは子供の小学校で知り合っていました。話をする中で「紹介するよ」と五小裏にあったゆいまるるに連れていかれました。これがきっかけです。家事は好きでも得意でもないのに仕事になってしまいました。受け入れて下さった利用者様、ご指導下さったヘルパーステーションの皆様のおかげさまで、長く続けているのに自分もびつくりです。たくさんの方々にお世話になっています。感謝でいっぱいです。ありがとうございます。

★山内 良子さん

自分の子どもが小学生となり、少し時間にゆとりができた頃に、「ゆいまるる」の出会いがありました。まだ若く、子育てまったただな、自分の考えが正しいと疑いもせずに、自信をもってまわりに押し付けていました。今にいたるまでには様々な年代の人々とも交流し、かけがえのない友人との出会いもありました。また、家族、知人、利用者さまとの別れもありました。そうした日々を経て、自分が良かれと思っていたことが、必ずしも正解ではない、相手の気持ちに寄り添うということが簡単なことではないということに、ようやく思いをはせることができるようになりました。ご本人とご家族の思いの違いを聞き入れながら、その人なりのこだわりを尊重しつつ、決して押し付けては、ほんの少し、その人が生きていく上でのお手伝いをさせていただき、そんな気持ちでこれからも可能な限り、「ゆいまるる」で働くことができれば幸いです。

★守谷 幸子さん

25年の感謝

ゆいまるる25年の月日は、色あせることのない深く濃い感謝にあふれる時の流れ。

その中で、自分自身も成長し、心も強くなりました。ゆいまるるでNHK「プロジェクトX」が時たまぶりです。

目の前の利用者様の生活、何分間の問題点に対して、本気で誠実に思考する…。時間を費やし、想像力を働かせ、その方の安堵感のみを求めて、試行錯誤する仲間の姿…。

見落としそうな小さなことは、偉大な喜びとなり、大切な生きるエネルギーと変化しますね。『ゆいまるるの挑戦者たち!』最高に「かっこいい!」思わず背筋が伸びる瞬間です。

ほらね!やっぱり心からの『感謝』です。

